

長野県企業誘致戦略（2023.3案）

長野県 産業労働部 産業立地・IT振興課



長野県の産業立地施策

公開



はじめに

公開

- 長野県は日本の中央に位置し、高速交通網の結節点となり、首都圏、中京圏はもとより、北陸地方にも好アクセス。さらには、2027年開業予定のリニア中央新幹線で、南信エリアに海外も含め新たな人の流れをもたらすことが予想される中、コロナ禍による地方回帰・働き方改革の流れも取り込み、県全体で企業・人材の誘致に取り組む必要がある。
- 県人口が平成12年をピークに増加から減少に転じ、令和3年は社会増に転じたものの、地域企業の雇用確保が課題、また、国際供給網(サプライチェーン)の分断による地政学的な企業活動リスクが課題。こうした社会情勢の変化に俊敏に対応することが急務となっている。
- このため、県では令和4年度に県内複数市町村と情報交換を行い、本戦略案を作成。本戦略では、市町村や経済団体、金融機関等と連携を強化する方針を示すとともに、状況の変化に応じ柔軟で俊敏に企業誘致を行う体制を構築するものである。

〔 個別市町村の状況や企業の投資等に関連する部分は、本戦略の「一部非公開版」において記載していない。 〕

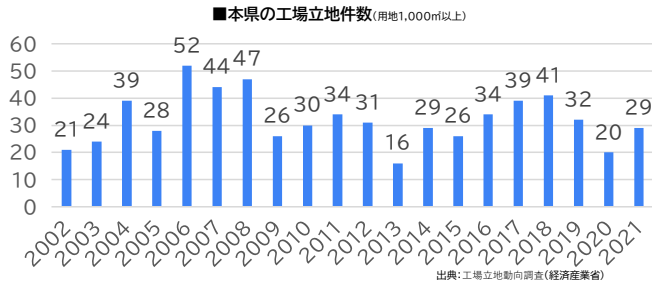
(1) これまでの取組と今後の方向性

公開

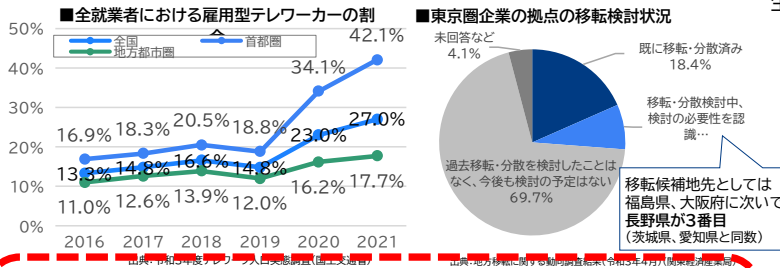
重点施策3 本社機能や研究開発拠点等の誘致とスタートアップ育成

課題等

工場立地件数は、リーマンショック以降20~40件程度で推移している。近年は米中貿易摩擦の影響などによる先行きの不透明感から低調に推移。



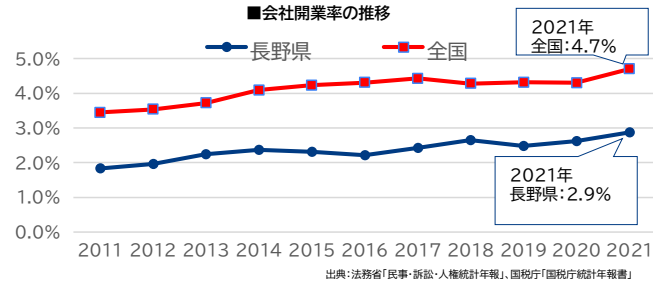
コロナ禍を契機に都市部の企業ではテレワーカーの割合や地方回帰の機運が高まっており、この流れを取り込む必要がある。



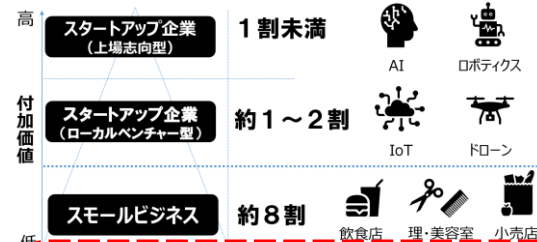
これまでの取組と評価

- ・助成金等で工場・研究所の新增設や本社機能移転を支援してきたが、米中貿易摩擦の影響などで立地件数は低調。事業認定件数50件、支援予定総額64億6,440万円(2018年度~2021年度)
- ・信州ITバレー構想の推進により善光寺門前を中心にIT企業・人材の集積が進みつつあり、今後はIT企業・人材の県内での活躍の場を増やしていく必要 ICT産業立地助成金認定企業13社、県外からITを中心としたクリエイティブ人材62組が定着(~2021年度)
- ・信州スタートアップステーション(SSS)を長野市と松本市に設置し、創業相談受付やセミナー開催などを通じてスタートアップ・エコシステムを構築 相談件数935件、創業件数29件(2020年度~2021年度)

会社開業率は、全国・県内ともに上昇傾向が続いているが、県内の会社開業率(2.9%)は全国(4.7%)に比べて低い水準。



起業の多くはスモールビジネスが占めており、起業全体のすそ野を広げるとともに、より付加価値の高く社会的インパクトのあるスタートアップ企業を生み出していく必要がある。



今後の方向性

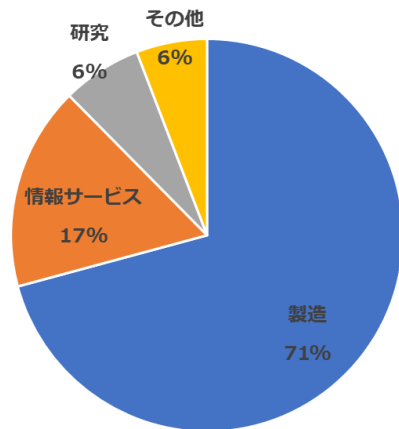
- ・引き続き、市町村と連携し企業立地を支援するとともに、関連企業とのつながりを強化し、着実な移転を促進
- ・県内で活動するIT企業・人材等と県内企業との連携促進
- ・若者が活躍でき、つながり人口等を増加させるIT企業の誘致を促進
- ・エコシステム機能強化に向けメンターや先進者の参加促進

公開

(2) 本戦略の目指す姿

- 立地企業は、圧倒的に製造業が多く、全体の71%を占めている状況
- ものづくり企業の立地が大勢であり、IT、ソフト等の情報サービス産業の立地が少ない

長野県が助成し立地した業種別企業の割合 (H18~R3)



長野県が助成し立地した業種別企業の推移 (H18~R3)



長野・松本地域等で

本社機能や研究開発拠点、IT企業が集積することで人口減少に歯止めの傾向



デジタルの力と地域の魅力を融合し、地域の価値を高め

クリエイティブ人材や高度IT人材のはたらく場を創出、国内外から若者が次々
集まるまちをつくる

(3) 企業立地施策の推進 3本の柱

公開

①

関係人口・
関係企業の創出

⇒

「それどこ？」とならないための、県内に企業や人材を呼び込む仕掛け・地域内企業との連携促進

②

企業誘致

⇒

県及び市町村をセットにした立地助成金や税制優遇策による企業誘致

③

企業留置

⇒

その地に根付いてもらうため、市町村等と連携し、誘致後の企業の困りごとに対応(専属担当制)

官民連携、地域内企業との連携

(4-1) ① 関係人口・関係企業の創出

公開

おためし立地 チャレンジナガノ事業 R3 60社 157提案 R4 51社 115提案

市町村等の課題を集約、その課題に取り組む県外企業をマッチングさせ、
県内でのビジネス創出・立地の足掛かりを作る

⇒ 全県対象の既存事業に加え、リニア開業に向け、南信地域でのリニアアセットを活用した
地域課題解決の取組を実施 (R5~)

おためし立地 

チャレンジ
ナガノ!



おためし

長野県でITやってみませんか?

ナガノ  



おためしナガノ2.0事業 92組156者

県内でおためしで暮らすIT人材の滞在費、活動費等を支援し関係人口を創出するとともに、
移住施策等との連携強化により定着率向上を図る

リゾートテレワーク推進事業 100か所

信州ならではの魅力にふれながら行う「信州リゾートテレワーク」を推進し、関係人口の増加を図る

「信州リゾートテレワーク」
ホームページはこちら

信州リゾートテレワーク 検索 



(4-3) ② 企業誘致 ゼロカーボン、ITバレー構想にも貢献

公開

ICT産業立地助成金 (最大3億円助成)

全国トップレベルの助成率で助成し、県内へICT企業の集積を図る

- ⇒
- ・おためし立地参加企業等、県内に関係性のあるIT関連企業の誘致
 - ・リゾテレ体験企業等へ、県外事務所を通じたアプローチ
 - ・リニア開業に向け、首都圏、中京圏のIT企業を誘致

本社等移転促進助成金 (最大3億円助成)

コロナ禍による地方回帰の流れを取り込み、県内への本社機能の移転と高度な人材の確保を図る

- ⇒
- ・大都市圏に本社機能を持ち、県内に拠点がある企業への本社機能誘致

産業投資応援助成金 (最大10億円助成)

地域経済に大きな波及効果をもたらす企業誘致を推進

- ⇒
- ・技術力があり最終製品を製造している企業、地域経済への波及効果のある企業を誘致
 - ・環境に配慮した取組を行う企業を誘致
 - ・県内出身経営者の県外企業等の誘致

税制優遇

不動産取得税の不均一課税、固定資産税、法人税の減免等

(4-4) ③ 企業留置 市町村・関係団体等との先駆的な連携

公開

地域と連携し、まちづくりも含めフォロー体制を強化、
地域企業・新規立地企業の留置に必要な対応を実施します



既存地域企業への支援

- ・工場拡張、従業員の新規雇用、新たな取組に対する産学官連携のパイプ役として
- ・庁内連携による土地利用調整への対応支援 等

新規立地企業への支援 例

- ・地元新卒学生雇用の支援(ハローワーク、学校訪問等)
- ・企業の課題解決支援(従業員の生活環境に対する要望への対応) 等



県、市町村、関係団体と連携して対応

(5) 企業誘致体制

公開

案件ごとに地域と連携し、必要に応じネットワークを構築

誘致対象企業

地域内企業

地域未来けん引企業立地チーム(地域振興局、市町村)

産業・雇用総合サポートセンター、プロ人材拠点等と連携し、雇用確保へ対応
工場拡張、従業員雇用、新たな取組に対する産学官連携のパイプ役
新卒採用に向け、教育機関(大学、高専、工業高校等)との連携

県外先端企業

先端・大型企業誘致チーム(県、県外事務所、市町村等)

知事(副知事、部課長等)、県外事務所、地元市町村長のネットワークによるトップセールス
産業立地推進委員・立地情報元の地場の建設事業者・不動産関係事業者、金融機関等との連携
地元新卒学生雇用の支援(ハローワークや経済団体、学校等とも連携)
立地企業の課題解決支援(従業員の生活環境に対する要望への対応)等

IT・地域課題
解決型企業

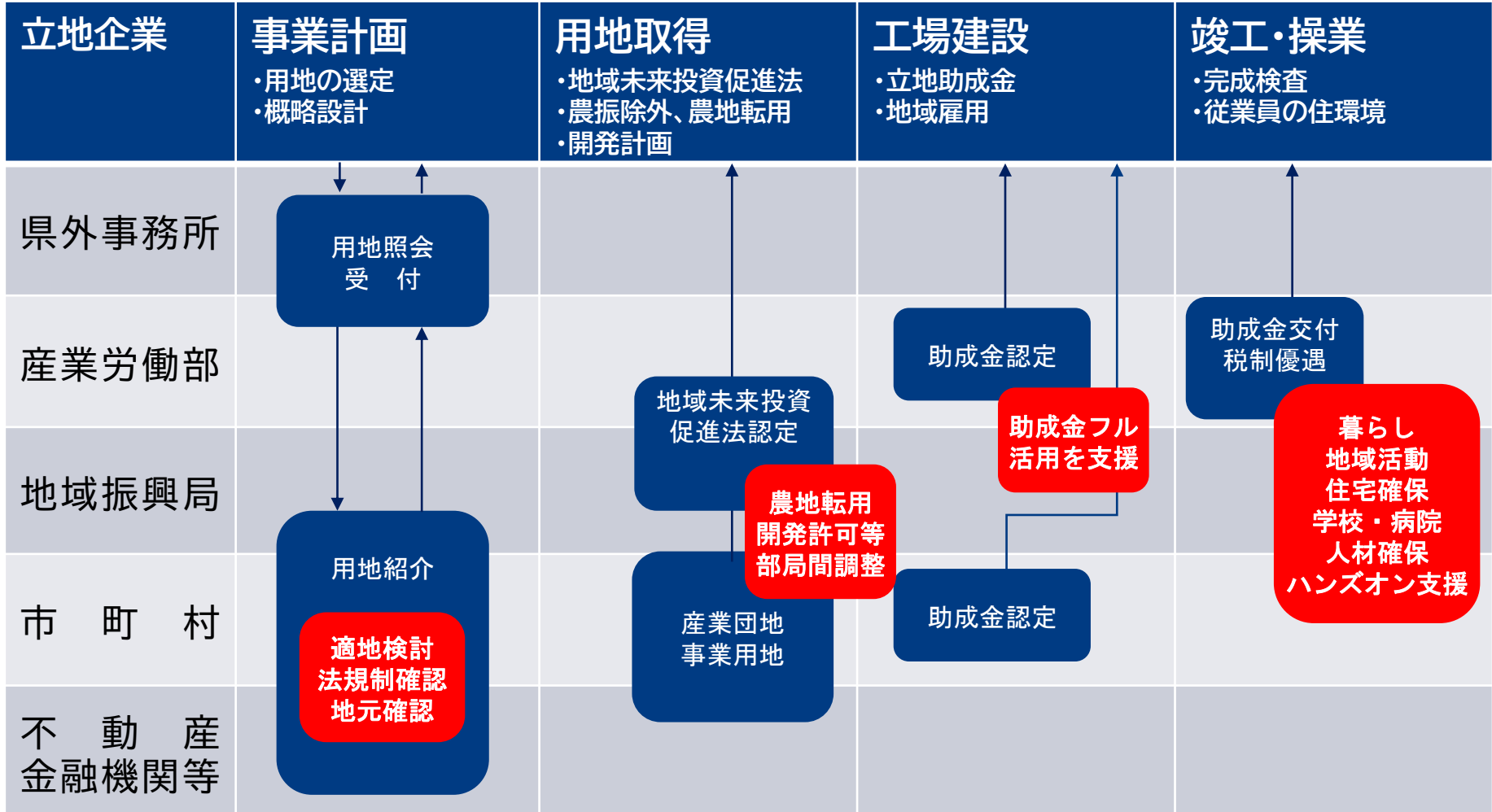
ITバレー推進連携チーム(県、市町村)

おためし立地チャレンジナガノ、おためしナガノ、信州リゾートテレワーク推進の各事業を実施
軽井沢NAGANOサロンを活用し、IT企業とのコネクションを構築

(6) 誘致フローと関係機関の役割

公開

立地フェーズに応じ、関係機関と連携しハンズオン支援を実施



(7) リニアバレー構想 企業立地チーム発足

※ 県内市町村と具体的な取組みを検討中

(8) 戦略実施による加速化イメージ

公開

市町村や産業界と連携し、県5か年の目標を達成し更なる成果を目指す

	R4 ~12	1	2	3	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
誘致戦略	市町村、関係団体等と意見交換				市町村、関係団体等と意見交換				
			中小企業振興審議会 (意見聴取)	部局長会議 (公表)	戦略見直し	戦略見直し	戦略見直し		戦略評価 新たな戦略検討
市町村との連携	※ 県内市町村と具体的な取組みを検討中								
産業界との連携					推進委員戦略会議 NAGANO サロン	推進委員戦略会議 NAGANO サロン	推進委員戦略会議 NAGANO サロン	推進委員戦略会議 NAGANO サロン	推進委員戦略会議 NAGANO サロン
目標 (総合5か年)	県内に拠点を 新增設する拠点数 125件以上にする				25 + α	25 + α	25 + α	25 + α	25 + α

【参考】リニアバレー構想 企業立地チーム

公開

リニアアセットを活用した誘致イメージ

農産物×フードテック企業

- ・昆虫食、寒天、味噌、凍り豆腐等
- ⇒長野から世界へ栄養価が高くエコな食品の開発

医療・介護×ヘルステック企業

- ・医療機関、介護施設、長野県看護大学等
- ⇒遠隔診療、病気予防、健康管理等次世代ヘルス産業の構築

森林資源×クリーンテック企業

- ・公有林、木曽漆器、ろくろ細工、ジビエ等
- ⇒食洗器使用木曽漆器やプラスチック代替製品の開発

大学・専門学校×エドテック企業

- ・信州大学南信州・飯田サテライトキャンパス、信州大学農学部、南信工科短大、看護大学等
- ⇒ラボを設置し、専門人材をフルリモートで早期戦力化、地方への魅力的な仕事を提供、夏季大学を開催し関係人口を創出

航空宇宙×エス・バード×製造業

- ・航空宇宙産業クラスター拠点工場、国内唯一エス・バード環境試験機、NAGANO航空宇宙産業クラスターネット
- ⇒航空宇宙特区制度を活用し、関係団体が連携のもと、アジアNo.1の航空機システム拠点を設立

環境先進地・エネルギー自立地域

○環境省の環境モデル都市・脱炭素先行地域に選定されるなど全国的にも先進的な取組を推進（飯田市）

- ・地域マイクログリッド
- ・リニア駅周辺の脱炭素街区・スマートグリッド構築
- ・グリーンインフラ整備

○環境省地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）による脱炭素の取組を推進

- ・太陽光利用システム、木質ペレットストーブ等の購入補助、公共施設への導入等（伊那市）
- ・公共施設への太陽光発電設備設置等（箕輪町）

○環境先進地としてゼロカーボン社会実現への住民意識は高く、地域活動が活発

- ・レジ袋削減にみる先駆的な環境活動（プラスチックスマート推進）（南信州）
- ・一日一人当たりの一般廃棄物の排出量が県平均以下（上伊那）
- ・官民協働による独自のエコマネジメントシステム「いいむす21」（南信州）

○再生可能エネルギーの普及拡大

- ・長野県企業局と地元企業・自治体が連携した再生可能エネルギーの地産地消企業局水力発電所数 伊那谷16か所／県内23か所
- ・再生可能エネルギー促進区域設定（箕輪町）

○豊富な森林資源の先進的な循環利用の取組

- ・木質ペレットの生産量が全県の約7割（上伊那）
- ・「50年の森林（もり）ビジョン」の策定（伊那市）
- ・循環経済型林業に取組む「木の糸コンソーシアム」（根羽村）
- ・山の放置木と地域通貨の交換により経済循環する「木の駅プロジェクト」（中川村）

○有機農業など環境配慮型農業の取組み

- ・学校給食への提供等により地産地消を進め、遊休農地解消にもつながる持続可能な有機農業の実践（松川町）

豊かな自然と雄大な景観

○天竜川沿いに形成された河岸段丘に美しい田園風景が広がる

○二つのアルプス（南アルプスと中央アルプス）に抱かれた雄大な自然が存在

- ・千畳敷カール（駒ヶ根市・宮田村） ・陣馬形山（中川村）
- ・高遠城址公園（伊那市） ・南アルプスジオパーク（伊那市・大鹿村）
- ・遠山郷、天龍峡、下栗の里（飯田市）



恵まれた自然環境を活かした学びの場

- **自然環境を生かした体験、仲間や地元の人々との関わりを通して、豊かな人間性を育む「山村留学」**
 - ・伊那谷10団体／県内16団体
 - フリーキッズ・ヴィレッジ（伊那市）、和合小学校親子山村留学（阿南町）
 - 浪合通年合宿センター（阿智村）、山村留学センター売木学園（売木村）など
- **豊かな自然環境を生かし、子どもが本来持っている自ら学び、成長しようとする力を育む「信州やまほいく」**
 - 伊那谷 61園(8市町村) 県内270園 (43市町村)
 - ・特化型 4園 (公立 1園 私立3園)
 - ・普及型 57園 (公立45園 私立12園)

- **他地域から注目を集める学びのカタチ**
 - ・児童が日常的に学校林の中で過ごし、様々な学びに生かす（伊那西小学校）
 - ・豚の飼育や出荷で食物の大切さを学ぶなどの総合学習（伊那小学校）
 - ・保育園での学びを小学校へつなげる（平谷小学校）
- **豊かな「学びの土壌」を活かした、「学習と交流」**
 - ・地域の価値を理解し、誇りを持つ人を育む力（地育力（ちいきりょく））を活かした「ふるさと学習」や「キャリア教育」（飯田市）

公民館活動などの学びと自治

- **全国的に評価される公民館（飯田市）**
 - ・地域の課題は地域で解決するため、住民自らが事業を企画立案・展開するなど公民館本来の目的に則した活動を実践
 - ひさかたわしの紙漉き体験、天龍峡夏季大学、夏休み子ども寺子屋など
- **関係人口によるまちづくり**
 - ・多様性を尊重し、地域の魅力発信や賑わいづくりに取り組む「トビチ商店街」や地元と来町者をつなぐプラットフォーム「信州フューチャーセンター」（辰野町）
 - ・情報と交流の拠点、居場所づくり「伊那まちBASE」（伊那市）
 - ・放置竹林整備に関係人口が集まる「いなだに竹Links」（飯田市）
 - ・地域住民が教授となり、伝統芸能の伝承やきのこなどの山の幸のマーケティングを実践しながら、村の暮らしを学ぶ「秘境大学」（天龍村）
- **その他**
 - ・JICA、JOCAと連携した学びと交流のまちづくり（駒ヶ根市）、まちづくりへの意見提案・自主的活動を行う高校生や大学生「わかもの特命係」（高森町）

- **次世代の育成**
 - ・産学官、地域が協働して次世代の育成（キャリア教育）や地域づくりを実践する「郷土愛プロジェクト」（上伊那）
- **大学のあるまちづくり**
 - ・大学・研究者による有機的なネットワークでモデル的な研究・取組を地域とともに行う「学輪IIDA」（飯田市）
 - ・リニア時代に向けた新たな地域づくり（国土利用、環境政策、地域づくり・人づくり等）に寄与する「ランドスケープ・プランニング共同研究講座」（飯田市）
- **新校の協議・検討を通じた魅力的な学びのあるまちづくり**
 - ・伊那新校・上伊那総合技術新校（ともに仮称）（上伊那）

伝統芸能を始めとする独自の文化

- **民俗芸能の宝庫**
 - 国指定重要無形民俗文化財 伊那谷6団体／県内10団体
 - 国選択無形民俗文化財 伊那谷11団体／県内23団体
 - ・ユネスコ無形文化遺産に登録された「風流踊」（阿南町）
 - ・ユネスコ無形文化遺産登録を目指す「神楽」（飯田市、天龍村）
 - ・住民の手作りによる奉納花火「清内路花火」（阿智村）
 - ・伊那の人形芝居「古田人形」（箕輪町）「黒田人形」「今田人形」（飯田市）「早稲田人形」（阿南町）
 - ・農村歌舞伎として継承「大鹿歌舞伎」（大鹿村）「中尾歌舞伎」（伊那市）

- **地域の技、生活の知恵**
 - ・伊那紬（駒ヶ根市）
 - ・水引（南信州） ・阿島傘（喬木村）
 - ・わら細工、竹細工、炭焼きなど
- **食文化**
 - ・昆虫食（上伊那） ・和菓子（飯田市）
 - ・信州伝統野菜の宝庫（伊那谷30種／県内81種）